

学校教育目標	「自立」自ら考え、自ら行動する子 「尊重」みんなを大切にする子 「創造」よりよい未来を切り拓く子
目指す学校像	みんなでつくる みんなの学校 ~児童・教職員・保護者・地域のすべての人の笑顔のために~
重点目標	1 小中一貫「花笑み教育」を中心とした魅力ある学校づくり 2 生涯にわたり、健康づくりに取り組む児童の育成 3 地域共生を目指す学校づくり 4 安心・安全な学校施設・設備の管理、適正な会計処理の実現 5 学びの自律化を目指す教職員の授業改善

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和8年2月12日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○城南中学校・和土小学校との小・中一貫教育「花笑み教育」が順調に実施できている。 ○令和6年度全国学力学習状況調査によると、各教科において、市平均値よりも下回っている。 <課題> ○計算や言語に関する事項など、基礎・基本の定着が不十分である。 ○習得した知識・技能や資料を活用しながら、自己の考えを的確に表現することが難しい。	小中一貫「花笑み教育」を中心とした魅力ある学校づくり	①高学年を中心にネイティブ教員、ALT、G・S 非常勤講師を活用しオールイングリッシュの授業を展開する。 ②地域人材及び資源を生かした学習活動を実施する。	①保護者学校評価項目 4「地域のよさを生かした学習活動」のA評価回答80%以上 ②児童が英語に親しみ、意欲的に学習している状況	①保護者学校評価項目「地域のよさを生かした学習活動」のA評価回答は71%（肯定的な評価は99%）→目標未達成 ②ニュージーランド校とオンライン交流をするなど、児童の英語に関する関心等を高めることができた。→目標達成	B	○G・Sの授業をオールイングリッシュで実施したが、アンケートの結果、分かりにくいと答えた児童もいた。絵や写真などを使いながら、どの児童にとっても分かりやすい授業展開を工夫する。	・評価の指標が高いため、検討をしたほうがよい。 ・教員によって、ICTの活用率に差があるようなので、平準化を求めたい。 ・児童の学習意欲の向上のために具体的な手立てを講じるとよい。
		タブレットやICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びの実践	①タブレット端末を活用した授業実践を推進する。 ②スタディサプリ・ドリルパーク等を活用して個に応じた学習を行う。 ③オクリンク等、共同編集アプリを活用して協働的な学習を行う。	①教職員学校評価項目12「ICTを活用した授業実践」の肯定的な回答 3.6P/4P以上 ②児童が日常的にタブレットを活用している状況	①教職員学校評価項目12「ICTを活用した授業実践」の肯定的な回答 3.4P/4P →目標未達成 ②第1学年からタブレットを使った学習に取り組んでいる。→目標達成	B	○おはようメーターの活用率は向上したが、授業の振り返りの活用率が低い。一単位時間の中で、学習活動を精選し振り返りの時間を確保していく。	
2	<現状> ○令和6年度の児童アンケート「クラスや学校での生活を楽しく過ごしています。」では、94%の児童が肯定的に回答している。 <課題> ○高学年において、スマートフォン等の利用で睡眠時間が少ない児童が増加傾向である。 ○心と生活のアンケートより、自己信頼や他者信頼が低い児童が一定数いるので、さらによりよい人間関係を構築する必要がある。	自己の生活習慣を振り返り、改善できる児童の育成	①全児童に「生活習慣アップカード」を配付し、生活習慣の改善家庭と連携しながら生活習慣の改善を行う。 ②毎週火曜日に、フッ化物洗口に取り組み、虫歯予防を行う。	①保護者学校評価項目10「子どもの心や体の健康」のA評価回答55%以上 ②児童が、自分の生活習慣を改善しようとしている状況	①保護者学校評価項目10「子どもの心や体の健康」のA評価回答は46%（肯定的な評価は93%）→目標未達成 ②生活習慣アップカードを進んで取り組むなど児童が自分の生活習慣を改善している様子が見られた。→目標達成	B	○今年度、生活習慣アップカードに取り組み、児童が自身の生活習慣を振り返り、改善しようとするよい手立てであった。次年度以降も継続していく。	・児童が増えると、児童相互のトラブルも増えることとなるので、より丁寧な対応をしてほしい。
		自他を大切にす児童の育成	①自らの価値や役割を見いだせるような学級づくりをする。 ②他学年の児童及び保育園や幼稚園、和土小児童、城南中生徒と交流する。	①児童アンケート評価項目1「思いやりをもち、友だちと仲良く生活」のA評価回答80%以上 ②誰とでも分け隔てなく交流している状況	①児童アンケート評価項目1「思いやりをもち、友だちと仲良く生活」のA評価回答76%（肯定的な評価96%）→目標未達成 ②縦割り活動を実施し、異学年で児童が積極的に交流していた。→目標達成	B	○児童数の増加とともに児童同士のトラブルも増加傾向にある。今後も十分な聞き取りで事実確認をし、保護者と連携しながら解決を図っていく。	
3	<現状> ○青少年育成会、自治会、社会福祉協議会等、本校を取り巻く地域の団体が緊密に連携し、児童を見守っている。 <課題> ○学校運営協議会で「安心・安全な新和地区を創るために」をテーマに3か年計画で目標を設定したが、意識・行動をどのように維持・継続させていくかが課題である。 ○学校の教育活動をホームページや学校安心メールで紹介しているが、さらなる周知が必要である。	学校運営協議会を中心とした学校経営の計画・実施	①学校運営協議会において、魅力ある学校づくりや目指す児童像について熟議し、児童会と連携して学校運営に反映する。	①保護者学校評価項目11「学校・保護者・地域の連携」のA評価回答55%以上 ②学校運営協議会、SSN、PTA等、地域団体と良好な関係	①保護者学校評価項目11「学校・保護者・地域の連携」のA評価回答46%（肯定的な評価93%）→目標未達成 ②学校運営協議会と連携しながら、共に係る授業を計画することができた。→目標達成	B	○今年度学校運営協議会に児童が意見を述べるなど参加した。次年度は児童が学校と地域のあり方や未来について、意見を交わすなど参画できるようにしていく。	・花笑み教育は順調に進んでいるようである。花笑み教育の実際の様子を学校運営協議委員が参観できる場を設定してほしい。
		保護者・地域との円滑な連携	①保護者が相談しやすいように、専門職や外部機関と連携するなど教育相談体制を整備する。 ②授業参観、地域学校保健委員会、図書館等の施設など、積極的に学校を開放する。	①教職員学校評価項目39「学校と関係諸団体との連携」の肯定的な回答 3.5P/4P以上 ②地域や保護者が積極的に教育活動に協力している状況	①教職員学校評価項目39「学校と関係諸団体との連携」の肯定的な回答 3.5P/4P→目標達成 ②授業参観、運動会、図書館公開等、年5回以上学校を公開し、地域人材を活用しながら教育活動を行った。→目標達成	A	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの情報共有を密にし、次年度も児童や保護者に寄り添いながら相談を行い、それぞれの課題の解決に向けて取り組んでいく。	
4	<現状> ○令和6年度より、教材費等の引き落としを業者委託にした。 ○新校舎完成に伴う引っ越しを夏休みに予定している。 <課題> ○教材費等の引き落としに係る事務処理を見通しや計画を立てて行う必要がある。 ○引っ越し作業に向けた計画や備品等の管理が必要である。	安心安全な施設管理と適正な会計処理の実施	①安全主任や用務担当と連携し、安全点検の確実な実施と即時対応を行う。 ②教材費等の集金について、教頭や事務担当と連携し、計画を立て効率よく正確に会計処理を行う。	①教職員学校評価項目47「校地・校舎の安全点検」肯定的な回答;3.6/4P以上 ②円滑かつ正確に会計処理が行われている状況	①教職員学校評価項目47「校地・校舎の安全点検」肯定的な回答;3.5/4P→目標未達成 ②見通しをもって教材費等の適切な集金業務ができた。→目標達成	B	○教材費等の集金のお知らせを早めに行うなど、さらに円滑な集金・会計業務を行う。	・今後の工事の予定を加味しながら、安全、安心な教育活動を展開してほしい。
		新校舎移転に向けた準備計画と適切な備品管理	①教育委員会等と連携して、増築工事や引っ越しを円滑に進める。 ②担当を指名して、適宜、備品管理を適切に行う。	①新校舎で児童が安心して学習している状況 ②備品が安全に管理され、整理整頓されている状況	①新校舎への引越、運用開始が円滑にでき、児童が新校舎で意欲的に学習・生活をしている。→目標達成 ②各担当が、長期休業中等に備品の確認、整理整頓を行った。→目標達成	A	○次年度も校舎の増築工事、体育館空調設置などの大きな工事が入ってくるので、工事日程を考慮しながら教育計画を立てていく。	
5	<現状> ○研修主任を中心に、教育活動における効果的なICTの活用方法について研修を重ねてきた。 ○日課を工夫したり、会議や研修の持ち方を精選したりしながら教員が教材研究に充てる時間を確保してきた。 <課題> ○スクールダッシュボードの利用率を上げる必要がある。 ○「学びのポイント」を意識した授業をさらに研究する必要がある。	学びの自律化を目指す授業実践	①学びのポイント「じしゃく」を意識したアクティブ・ラーニング型授業を展開する。 ②研修履歴を活用して、教職員が自身にあった研修に取り組み、能力や資質を高める。	①教職員学校評価項目13「学びのポイントを意識した授業づくり」肯定的な回答 3.5/4P以上 ②教職員が意欲的に教材研究や研修に取り組んでいる状況	①教職員学校評価項目13「学びのポイントを意識した授業づくり」肯定的な回答 3.3/4P→目標未達成 ②会議等の精選、無理のない日課や行事計画を行い、教材研究の時間確保を行った。→目標達成	B	○次年度、タブレット端末が新しい機種となるので、教職員の研修機会を増やし、さらにICTを活用した学びの自律化を目指す。	・引き続き、教職員の時間外在校時間の縮減に取り組んでほしい。 ・教職員が健康で安心して働ける職場環境の整備を願う。 ・教職員の授業交流を城南中学校校区だけでなく、市内の学校に参加数に行くなど、視野を広げてほしい。
		教職員の負担軽減のための働き方改革の実践	①教職員に毎月、時間外在校時間を提示し、在校時間の縮減について意識をもたせる。 ②ICTを活用した業務の改善を行う。	①時間外在校時間「360時間/年」以内の教職員の割合が8割以上 ②教職員が意欲的に安心して業務に取り組んでいる状況	①時間外在校時間「360時間/年」以内の教職員の割合が6.8割(13/19) →目標未達成 ②ほとんどの教職員がアンケートで風通しのよい職場であると回答した。→目標達成	B	○今年度、時間外在校時間が360時間/年以上の職員が3割もいたため、業務の精選を図り、ICTを活用しながら業務の負担軽減を行う。	